

大企業に入ったけど全然幸せじゃなかったレポート

こんにちわ、くろシロです。

このレポートは
親の言いなりになって大企業に入るために生きていた僕が

- ・ 初めての海外1人旅で常識はずれの人たちに出会い、それまでの自分の価値観をガラッと変えられたこと
- ・ 新卒で一部上場の大企業に入ったけどまったく幸せを感じられない職場環境に絶望し3年で退職したこと
- ・ その後ミャンマーで暮らし始めてから、23歳で1億円稼ぐ男から学びたった数ヶ月で月収100万円以上稼ぐようになった青年と出会った物語です。

魂を込めて書いたので少し長くなってしまいましたが、
その辺の本屋に平積みされている自己啓発本より
よっぽど内容が詰まっている自信があります。

だからこのレポートを読むことで、

昔の僕のように会社で働き続けることに疑問を感じている人や
将来に希望を持ってない人の悩みが解決し、
新たな人生の可能性が見えるようになることを保障します。

ではここから具体的な内容に入っていきますが、
その前にまず結論から言うと

僕がこのレポートで伝えたいことは

「自分の好きなことを好きなようにやってもいいし、
他人を気にして自分の人生を犠牲にする必要はない」

ということです。

僕はそのことに気づき、
新卒で入った会社を退職し
ミャンマーで国際協力の仕事をしながら
ネットビジネスで起業しました。

そして昔のように自分の人生に退屈や疑問を感じることは一切なくなり、
ミャンマーで毎日笑いながら楽しく生活しています。

しかし思い返すと、
つい最近まで本当につまらない人生を送っていました。

なぜなら僕は

「大企業に入るために生きていたようなもの」

だったからです。

まずはそう思うに至った僕の人生について振り返っていきます。

僕は 1990 年に埼玉県のとある田舎町で
自営業を営む両親のもとに生まれました。

実家はお金持ちでも貧乏でもなく
いわゆる中流家庭でしたが

父親が中卒、母親が高卒だったため
両親ともに学歴に強いコンプレックスを持っていました。

そのため二人とも

偏差値の高い大学を卒業しないと大企業に就職できない。

↓

大企業に就職できないと幸せな人生を送れない。

こう考えていました。

だから僕は幼い頃からずっと

「頭のいい大学に入学して大きな企業に入った方が幸せになれるんだよ」

と言い聞かせられていました。

そして両親は僕の幸せを願い、
こんな人生設計を僕に刷り込みました。

ゴール：大企業に入って幸せな人生を送る

↓ そのために

偏差値の高い大学に入る必要がある

↓ そのために

偏差値の高い高校に入る必要がある

↓ そのために

高校の受験勉強をたくさんしなければいけない

ということで

中学生の頃からめちゃくちゃ勉強させられました。

平日5日間の内、
月・水・金の3日間、塾に通っていました。

でも宿題がたくさん出るし、
予習や復習もしなければいけなかったので
結局、火・木も勉強です。

週末も宿題ばかりしていました(泣)

でもそんな地獄の受験勉強のおかげで
地元でトップクラスの進学校に合格しましたが、
ここがゴールではありません。

ゴールは大企業に入ることです。

だから高校時代も勉強ばかりしていました。

そして無事に某有名大学に入学してから3年後
僕はついに最終関門、就活を迎えました。

でもその時点で
自分が将来どんなことをやりたいのかなんてまったく分からなかったし、
ましてどんな仕事に向いているのかなんて全然分かりませんでした。

だからとにかく大企業にエントリーシートを出しまくりました。

何十年も続いていて、一部上場していて
とにかくつぶれなさそうな企業ならなんでもいい

と思っていました。

でもそんな適当な動機+準備不足もあり面接はボロボロ、、、
しかしなんとか4年生の5月で就活を終えることができ、

そしてゴールにたどり着いた僕は初めて

「親から解放された」

と思いました。

今までずっと親の敷いたレールの上を親と一緒に走ってきました。

勉強しろと言われてれば、勉強し、
アルバイトをするなと言われてれば、それに従い、
正社員になれと言われてれば、その通りに就活してきました。

でもここから先は自分一人で進んでいきます。

そんな親の監視のない自由な生活に憧れを感じていましたが、
いざそうしてみると不安も感じました。

今までは親が考えていたことを
ただ実行していればよかったけど

これからは全部自分で考えて
自分で判断していかなければいけないからです。

これまで親に言われたことばかりやっけていて
ある意味思考停止していた僕にとって、

自分で考えて自分で決断するのはものすごい労力と勇気のいることでした。

でも

「こっちがいいかなあ」

「でもあっちの方がいいかもなあ」

「失敗したらどうしよう、、、」

なんてグダグダ悩んでいるうちに時間はどんどん過ぎていきます。

しかし

就活を終えてから実際に就職するまでのギャップ期間は
なんでもできる最高に自由な、大切な時間です。

先に社会に出た大学の先輩たちから

「社会人になったら1週間休むのも大変だ」

という話もよく聞いていました。

だから

「このチャンスを逃すわけにはいかない」

そう強く思って、

これまで絶対にできなかったこと
そしてたくさんの時間が必要なこと

「バックパッカー」

に挑戦しました。

(たまたま読んだ深夜特急という小説がきっかけでした)

そして大学4年生の10月

僕は新宿で買った真新しいバックパックに荷物をパンパンに詰めてタイのスワンナプーム国際空港に降り立ちました。

初海外、初一人旅で
まったく日本語が書かれていない空間に足を踏み入れた僕の心は正直、期待よりも不安の方が大きかったです。

なんせ全てが初めての体験です。

英語ではない、それまで聞いたこともない異国の言語
それらを話す日本人とは違って浅黒い肌の空港係員やショップ店員
空港全体を覆う日本とは全く異なるにおい

そして極め付けは東南アジア独特のむわっとする暑さ

日本から長袖・長ズボンを着てきた僕はすぐに上着を脱ぎましたが、それでも汗がじわじわと噴き出てきました。

緊張していたからというのも汗が噴き出てきた理由かもしれません。

恥ずかしながら
あんなに受験勉強していたのに当時の僕は
まったく英語が話せなかったんです(泣)

でもそんな英語下手な奴でも
カオサンロードに行けばなんとかなるという情報を聞いていたので、
空港から出た後はひたすら「カオサンロード」を連呼しました(笑)

そして親切なタイ人に助けられながら
電車とバスを乗り継いで実際にカオサンロードについてみると

確かにそこには数えきれないほどのバックパッカーたちが集まっていました。

肌の色も髪の色も、身長も顔つきも
話している言語もすべてばらばら

そこには到底日本では見られないような
人種のジャングルが出来上がっていました。

もちろん彼らを泊めるための安宿も無数にありましたが
僕は初めての海外にビビりまくっていたので
迷わず日本人宿を選びました（笑）

そしてその宿でいきなりとんでもない人たちに出会い、
それまでの僕の価値観は粉々に砕かれました！

特に当時 25 歳だった一人の日本人男性が強烈に印象に残っています。
なぜならその人のエピソードがとにかく全て当時の僕には理解不能だったので（笑）

例えば
無人島まで泳いで渡り、1 週間野草を食べて生活した話。

これを聞いたときの僕の頭の中は軽くパニック状態、、、

まず無人島まで泳ぐ理由が分かりません。

船使えよ（笑）

「それに無人島に生えている草って食べてもお腹壊さないの？」

「川の水って飲めるの？」

「夜寝ているときに動物とかに襲われないの？」

「虫がうじゃうじゃいるんじゃないの？」

もう疑問しかでてきません（笑）

でもその人曰く

「だいたい」大丈夫だったらしいです。

だいたってなんだよ（笑）

さっき知り合ったばかりの年上の方にも関わらず、
思いっきり突っ込んでしまいました。

もうこのエピソードだけでも十分ぶっ飛んでいると思いますが、
その人は他にもこんな変なことをしていました。

廃材とカンパを集めて1円もかけずに大阪でバーを開店

うーん。やっぱりよく分からない（笑）

「お店ってそんなに簡単にオープンできるのだろうか？」

「廃材で作ったお店にお客は来るのだろうか？」

「カクテルって素人でも美味しく作れるのだろうか？」

またまた疑問だらけですが、

その人が言うには

全部気合でなんとかなったし、
オープンするといつも満席になるらしい。
（その人の気分が乗った日だけ営業していた）

もう話すことが何から何まで常識はずれ

せっかくタイまで来たのに
その人の話が面白すぎて宿のロビーで数時間話し込んでしまいました。

で、最後に一番気になる質問をしてみました。

「どうしてそんなことをやっているんですか？」

その人の答えは

「面白そうだったから」

ただ一言でした。

それがこの人の価値観、人生の指標だったんです。

だから大学や会社に入るとか
その人にとって心が揺れないことは一切してこなかったらしい。

そしてこれからもしないと断言していました。

僕はそれまでそんな人に出会ったことはありませんでした。

でも何にも縛られない自由な生き方を貫く姿勢をカッコいいと思いました。

自分もこういう生き方をしたいと思いました。

そして同時に、
ただ机で勉強だけしてきた自分の世界の狭さを強烈に意識し、
それまで視界にかかっていた靄が一気に晴れていくのを感じました。

でもだからこそ余計に
帰国後に内定先の会社に入ってから窮屈な生活は
本当に地獄のようでした。

毎日決まった時間に出社して決まったデスクに座り、
一日中パソコンにデータを入力する日々
(僕は経理課に配属されました)

自分が成長している実感なんて全然なかったし、
まして面白いなんて一度も思いませんでした。

タイで出会ったあの人に教えてもらった価値観には
まったくそぐわないつまらない生活でした。

でもその中でも特に嫌だったことは
たった1円ずれた原因を探すために何時間も残業をしていたことです。

「俺が1円払うから帰らせてくれ」

っていつも思っていました。

そんなつまらない生活を送っていたので

「誰の目も気にしないで自分のやりたいことを好きなだけやっていた
バックパッカーの頃に戻りたい」

日に日にその思いは膨らんでいきました。

でも退職したら両親が悲しむ。

ただその一点だけが心に引っ掛かり
退職できないままズルズルと時間だけが過ぎて行きました。

でも悩んだ末に、最終的に僕は辞めました。

やっぱりタイで出会った彼のような面白い人生を送りたかったし、自分の人生なんだから自分のために生きたいと思ったからです。

僕は勉強ばかりして大企業に入りましたが、その結果得たものは、

超がつくほどつまらない会社員生活でした。

だから次は会社にこだわらずに自分の好きなことをやろう

そう思って興味があった国際協力の仕事に応募しミャンマーに来ました。

そしてミャンマーに来てからの生活は冒頭で紹介した通り、笑いに満ち溢れています。

例えば、ミャンマー人は問題が起きても笑っています。

「おい、ちゃんと働け(笑)」

って思うけど、笑っている姿を見るとこっちも自然と笑ってしまいます。

興味のあること、自分が面白いと思うことに全力で挑戦してみる

そんなタイで出会ったぶっ飛んだ男の生き方を真似したら僕の人生も一気に充実し始めました。

でも NGO は給料が低いのでお金は貯まりません(泣)

そこで途上国で働きながら収入を得る方法を探していたときに
ネット上で気になる人物を見つけました。

年収1億の男に弟子入りしてからたった数ヶ月で月収100万円稼げるようになった
というプロフィールがすでに僕の理解を超えていて衝撃的でしたが、

それよりもっと気になったのは

「ビジネスにはお金も才能も人脈もいらない」

と言っていたことです。

でも最初は、

「そんなわけないだろう(笑)」

って思っていました。

なぜなら僕は
ビジネスを始めるためには
お金も才能も人脈も全部絶対に必要だと思っていたからです。

でもその人のブログの記事やYoutubeで話している内容は納得できることばかり。

そこで実際に連絡を取ってみて、
(本物だと確信し)弟子入りして、
師匠に教えてもらったことを素直に実践してみました。

すると驚くように順調にビジネスが進んでいきました。

本当にビジネスは学べば誰でもできるものだったんです。

(詳しい話をし始めるとどんどん長くなってしまうので
詳細はメルマガやブログで確認してください。)

そのおかげで現在
国際協力の仕事にやりがいを感じながら、収入は副業で得る。

そんな、お金とやりがいどちらも満たされた生活を送っています。

日本で会社員をしていた時とは真逆の
笑いの絶えない楽しい毎日です。

ミャンマーは途上国なので
日本では考えられないようなとんでもパプニングも起きますが
それも含めて充実した毎日です（笑）

でもこんな楽しい日常を送れるようになったのは

自分の好きなように生きようと決めてからです。
両親の望む大企業の正社員生活を捨てて初めて手に入った生活です。

だから僕は誰でも

自分の好きなことを好きなようにやった方がいいと思うし、
（たとえ両親のためでも）自分の人生を犠牲にするべきではないと思っています。

幸せを感じていない人が他の人に幸せを分けることはできません。
まずは自分で自分を幸せにしてあげる必要があるんです。

そしてその方法は
自分の好きなように生きてみることだと思います。

僕はタイで出会った一人の男性からそれを学び、
ミャンマーに来てからその生き方が正しいと確信しました。

それにこれは僕や彼以外にも当てはまる普遍的な話です。

だから僕はこのレポートを書きました。

このレポートが
昔の僕のように自分の人生に疑問を感じている人が
行動を起こすきっかけになってくれれば幸いです。

ここまで読んでくれてありがとうございました。

今回はあえてマインドだけお話ししましたが、
具体的な方法についてはメルマガ内でお話ししているので
興味のある方は以下のリンクから登録してみてください。

[>>> 無料メルマガ登録はこちら <<<](#)

最後に、

このレポートの感想を頂けると超うれしいです。

ブログに設置された[ご要望フォーム](#)を利用
またはメルマガに返信いただくと

僕に届きます。

いただいた感想には全て目を通していきますし、
面白いメールをくれた人とはスカイプしたりメールに返信したりしています。

また感想や学んだことを一行でも書いて返信する（アウトプットする）と
していない人に比べて圧倒的に知識が定着します。

それを繰り返しているとどんどん文章がうまくなっていきますので
完璧主義にならず気軽に書いてみてください。

ここまで読んでくれてありがとうございました。

では続きはメルマガで(↓)

[>>>無料メルマガ登録はこちら<<<](#)

くろシロ